

## 2023年6月23日所長会見 所感

- 福島第一原子力発電所の事故により、今もなお、大変多くの皆さまに、ご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、また、「核物質防護事案」や「安全対策工事の一部未完了」につきまして、地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご不安・ご不信を抱かせておりますことについて、深くお詫び申し上げます。
- 本日は、私から2点お話しさせていただきます。
- 1点目は、昨日行われました原子力規制委員会との意見交換についてです。
- 規制委員会の中では、4項目への対応状況を通じて、「当社がどのように自律的かつ持続的に改善を行おうとしているか」について、社長の小早川より説明をいたしました。
- また、経営が「現地・現物」の観点を自分ゴト化することで、現場の管理側と担当者や協力企業との距離を近づけることが大切であることもお伝えしております。
- 委員の皆さまとの意見交換の場では、
  - ・4項目への対応の達成の見込み
  - ・協力企業の皆さまも含め、取組の目的をしっかりと理解いただくこと
  - ・当社の弱点をどのように考えているかなどのご意見やご質問をいただきました。

- これを踏まえ、発電所長である私の役割としては、7月中を目途に荒天時を含めた体制構築と実動訓練を行うなど、4つの課題への対応についての整備を進めることはもとより、現場にて現地・現物での改革・改善を日々推進し、より良いものにしていくことだと考えております。
- 社長が当社の弱点について、縦割り・横割りによるコミュニケーションの悪さと申し上げましたが、それを打破していくものがまさに現地・現物での改革・改善と考えております。
- 私自身、正門等でのあいさつ時に、所員や協力企業の皆さまの振る舞いも観察し、不適切な振る舞いがあれば、「なぜこのようなルールが必要なのか」、「なぜ協力する姿勢が重要なのか」を日々のブログで発信するとともに、直接対話を通じてお伝えしています。
- また、注意をするだけでなく、サンクスカードの贈呈などの褒める仕組みも継続し、コミュニケーションが活発な職場作りに努めているところです。
- 現在では振る舞いの観察を行うだけでなく、第一線で働く方々との直接対話による実態把握や、不要警報対策などハード面の状況についても直接この目で見て、関係者で改善策について議論を行ってまいりました。
- こうした取組を日々継続していくことが、自律的かつ持続的な改善を行う上で重要です。

- 私達が目指すべき姿は、昨日社長も述べたように、検査でご指摘いただく前に、自ら発見し改善できる組織となることです。  
現場のトップである私が、セキュリティ、セイフティに関わらず、まず現場実態の把握を行い、問題となるものは CR を起票し改善に繋げる。変更管理プロセスをしっかりと回す。また、モニタリングによる気づきに対して、スピーディに改善を行うことを、発電所長である私が主導して進めてまいります。
- 2点目は発電所構内の荒浜側海岸の清掃活動についてです。
- 6月6日～8日にかけて、不要警報の低減と、地域の皆さまや発電所で働く方々から少しでも綺麗な発電所として感じていただけるよう、協力企業の皆さまとともに構内の荒浜側海岸の清掃活動を行いました。
- 3日間で、のべ191名が参加し、そのうち、32名の協力企業の皆さまにご協力いただきました。
- 先ほどお伝えした追加検査の対応において、「協力企業を含め発電所一丸となった核物質防護の取組の実現」を目指しており、こうした取組もそれに資するものと考えております。
- 今後、大湊側においても構内の海岸清掃を計画しており、引き続き、協力企業の皆さまと一丸となった取組を進めてまいります。

- 最後になりますが、今年も「えんま市」翌日の清掃活動に、地域の皆さまと一緒に参加しました。
  
- 当社からは原子力・立地本部長の福田や私を含め、41名が参加しました。昨年（30名）よりも参加者が増え、発電所の志にある、「地域を愛し、地域に愛される発電所」を目指す意識が少しずつ浸透してきていると感じております。
  
- 来月以降も発電所として、中央海岸や荒浜海岸の清掃活動等の地域活動に参加する予定であり、柏崎・刈羽地域の一員として、地域に貢献してまいります。
  
- 私からは以上です。